

優秀賞

タイトル 茶の湯への想いが込められたマンションリフォーム

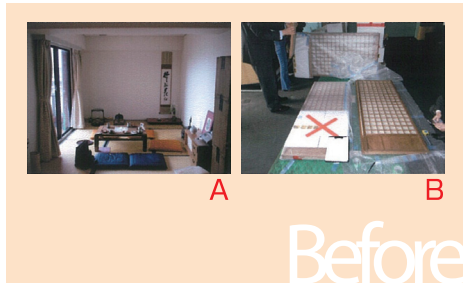
タイプ 持家共同建

構造 鉄筋鉄骨コンクリート造

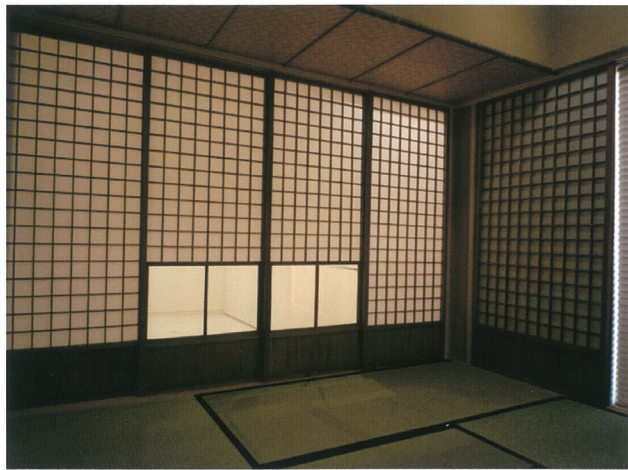
講評

制約の多いマンションの中で美しくまとめられた茶室。内装制限も緩和されたので炉も本格的に切れる。このように使い方を限定する和室はこれからも増えていくのではないだろうか。床壁裏の収納は微笑ましいアイデア。

リフォーム前後の写真



After コンクリート空間に和の伝統意匠を再現。古障子再利用で思い出も受け継ぐ。



実家で使っていた障子はリビングとの間仕切りに再利用した。かけがえのない思い出を引き継ぐメモリアルリフォームとなった。 ①



床の間奥は収納として活用するため無垢の桐板目材の開き戸をつけた。 ②



茶室建築の約束事に従って、素材・仕上げにこだわった茶室。45㎡のワンルーム空間の約半分が茶室スペースとなった。白萩天井、赤松皮付床柱を選び、壁はジュラク塗りとした。飛び出した梁の下面には杉柵網代を張り、下がり天井風に。寝室にも使えるよう押入を設け、障子とサッシ窓の間に遮光ブリーツカーテンを取り付けて、安眠できるようにした。 ③

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／特筆すべき住宅性能向上の内容など

<リフォームの動機・要望>

1. 茶道教授の活動拠点兼セカンドハウスづくり。マンション内に、母が遺した古障子を使って、裏千家の本格茶室を造りたい。
2. ディテールは裏千家茶室の約束事を踏まえたものとし、マンション空間ながら、最低限の条件は満たした茶室としたい。
3. 普段は茶室を寝室として使うので、布団収納も考慮し、夜は窓からの光を遮断できるようにしたい。
4. 手持ちの和たんす、マンション備え付けの空調設備を隠したい。

性能向上の特性
収納性

特に配慮した住宅性能
造作収納新設

<リフォームのポイント>

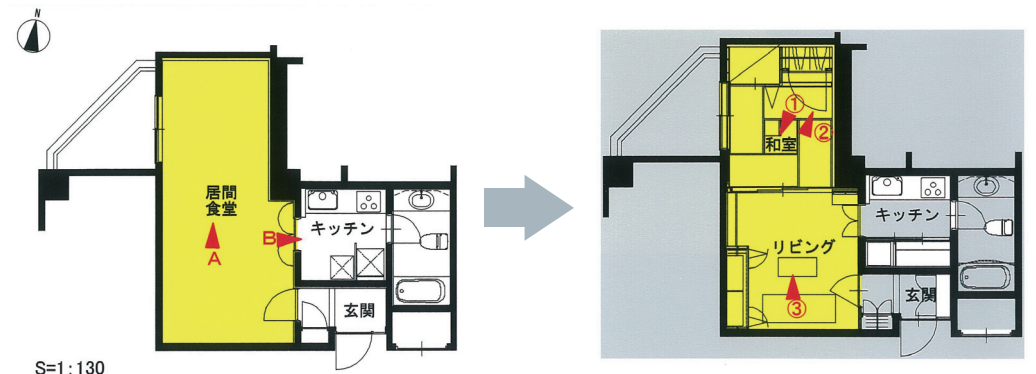
1. 狭いワンルームを、和室（茶室）と洋室に分けて作り込むことで、却って広く使い勝手良く感じられる効果をねらった。
2. 茶室づくりでは、サッシ位置やコンクリートの壁、梁の位置が決まっている中、裏千家の建築ルールを考慮し、古障子を再利用する挑戦となり、各所にミリ単位の寸法調整を行った。
3. 収納量を確保するため、床の間奥は物入として活用。リビング側の壁面にも、たんすや空調機を隠せる収納を設けた。

データ

所在地	東京都渋谷区	築後年数	31年	施工期間	67 日間
該当工事面積	22.0 ㎡/総工事床面積 42.3 ㎡	該当部分工事費	520 万円/総工事費 720 万円		
居住者構成	15歳以上65歳未満: 1 人/65歳以上: 人/15歳未満: 人/ベッド:				
設計会社	(株)東急ホームズ	担当者	小澤 誠司、石川 宜孝		
施工会社	同上	担当者	石川 宜孝、渡辺 順一		

リフォーム前

リフォーム後



リフォーム部位: 居室 台所 浴室 便所 洗面所 廊下 階段 玄関 エクステリア マンション共用部